

村雲の歴史と自然

その2

「村雲の歴史と自然を歩くウォーク」を再発見し、いま住んでいるふるさとに思いをはせながら歩くのも楽しいのではないのでしょうか？

「まち協」事務所前

① 《草ノ上》

草ノ上は、「和名抄」に記載された「丹波国多紀郡草ノ上郷」の「草ノ上」が小字地として残ったのでは？

燈明寺山(東尾山) 燈明寺

「まち協」事務所から東へ約1キロで登山口があり、急な道を登ると約30分位で燈明寺(東尾山ともいう。標高461.1m)に着く。燈明寺は役行者の開基(白鳳時代、470年ごろ)、本尊は薬師如来。三嶽修験道の塔頭寺の一つ。明智光秀の丹波攻め細工所城落城のとき、火を放たれ焼失した。境内には、不動尊など石碑・石仏が立ち並び、本堂裏の小丘には護摩をたいた広場もある。月一回草ノ上の人たちによって清掃が行われている。すぐ近くの岩場に、「日陰躑躅」の群生地があり、やま躑躅とのコントラストが美しい。

左近神社

創立は不明。草ノ上丁ノ田の古宮(村雲小前に今もある)から遷座したと言われ、村雲地区七集落の総社、荘園の氏神?と考えられる。祭神は、伊弉諾尊の御子大山祇神で、武神・海神・山岳神・農業神として崇敬される。別当寺は和光寺・千蔵院で村雲小学校の前身「神田小」がここで創立された。(運動場に柳の古大木が昭和10年代まであったが、和光寺の名残り。(秋祭には七台の山車が出る。(五台は大鼓神輿で四輪がついているのが珍しい。)

たばこ乾燥場 昭和30年ごろまで村雲では、換金植物としてたばこ栽培農家が多かった。今日でも、各集落に「たばこ乾燥場」が残っている。草ノ上の入り口荒木明さんが化粧をしながら保存されている。立派な歴史的建造物として一見の価値があるのでは。

村雲は古くから風流の里

左近神社の境内には、芭蕉の句碑がある。結ぶよりはや歯にひびく清水かな
すずしさの外なし神に向ふ時 はせを翁
(大正時代建立、兵庫県立美術館ネットミュージアム兵庫文学館掲載)芭蕉が丹波を旅し、芭蕉の句の中から左近神社にあつ句をあてはめて句碑を建立したと考えられる。(こんな例は王子山にもあり、はせを(芭蕉)名の句碑、「しばらくは花の上なる月夜かな」がある。

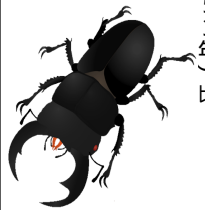
下彼見細見邸に、「猪鳴子たぐれば遠く闇にあり 沾露」、草ノ上久合田邸には、「かなかなの鳴きくずれては遠ざかる 水朗」があり村雲は俳句の伝統が濃い。(丹波いしづみ研究会、丹波のいしづみより)

今も生息している古代の化石生物 カイエビ
化石カイエビは全国でも六ヶ所しか発見されず貴重な生物である。篠山市内では八上などにみられ、毎年4月下旬〜5月に発生、7月頃に姿を消す。4〜9mmの微小生物である。
知っている篠山川の魚?
篠山川の魚、今もいるかな! 珍種オヤニラミ(四つ目、メコヨ)がとれて村雲小の水槽で飼われていたことがある。

村雲にいる魚

- ・カワムツ(方言 モト)
- ・アブラハヤ(ヤマモトカンスケ 鯉科)
- ・ウグイ(イダ 鯉科)
- ・カマツカ(ネガマ 鯉科)
- ・タモロコ(モロコ 鯉科)
- ・アカザ(ヒツ ギギ科)
- ・オイカワ(雄アサジ雌ハエ、ハス)
- ・カワバタモロコ(ギンタ 鯉科)
- ・ドンコ(ヌスン)
- ・ヨシノボリ(ゴリン はぜ科)

(篠山農高教諭樋口繁一著「篠山の生物」より)これは昭和28年(1953年)頃
にいた魚です。ほかにも最近、近くの川で獲った珍しい魚がいたら教えて下さい。



② 《小田中》

小田中へ行けば、生活に必要なものはほとんどものが調達できた。昭和30年代後半から始まった日本の高度経済成長期に、自給自足的な村人の生活が終わり、小田中にある店舗は次々に無くなっていった。(小田中旧市街図が総代によって作成されている。)

小田中あった店舗

- ・自転車店(2軒)・酒屋
- ・傘、提灯屋(雨具)・時計(宝石他)・ブリキ屋
- ・たばこ屋(ほか雑貨)
- ・菓子屋・鍛冶屋・魚屋(2軒9)
- ・文房具屋・雑貨屋(なんでも屋)・医院(産婆)・宿屋(3軒)・豆腐屋

小田中も草ノ上郷のなかで古くから棚田がつくられ人がすみついた。稲荷神社の後の丘にある「稲荷山古墳」は、6世紀後半に作られた全長28mの横穴式でT字型古墳は大変珍しい。大陸形式と言われ「旦波国多貴評漢人部」(木簡、明日香村出土)から渡来人の墳墓?と推定される。

清五郎稲荷神社

江戸時代文政年間、將軍上覧大相撲で小田中清五郎ら8名の力士(拜殿に8名の力士の絵馬が奉納されている。)が勝ち続けた。毎年、秋祭には、子供相撲が奉納されていた。村雲の大切な資源として、旧多紀中あとにチルドレンズミュージアムがあり、「地域社会に根をはるミュージアム」めざし多彩な活動をしている。